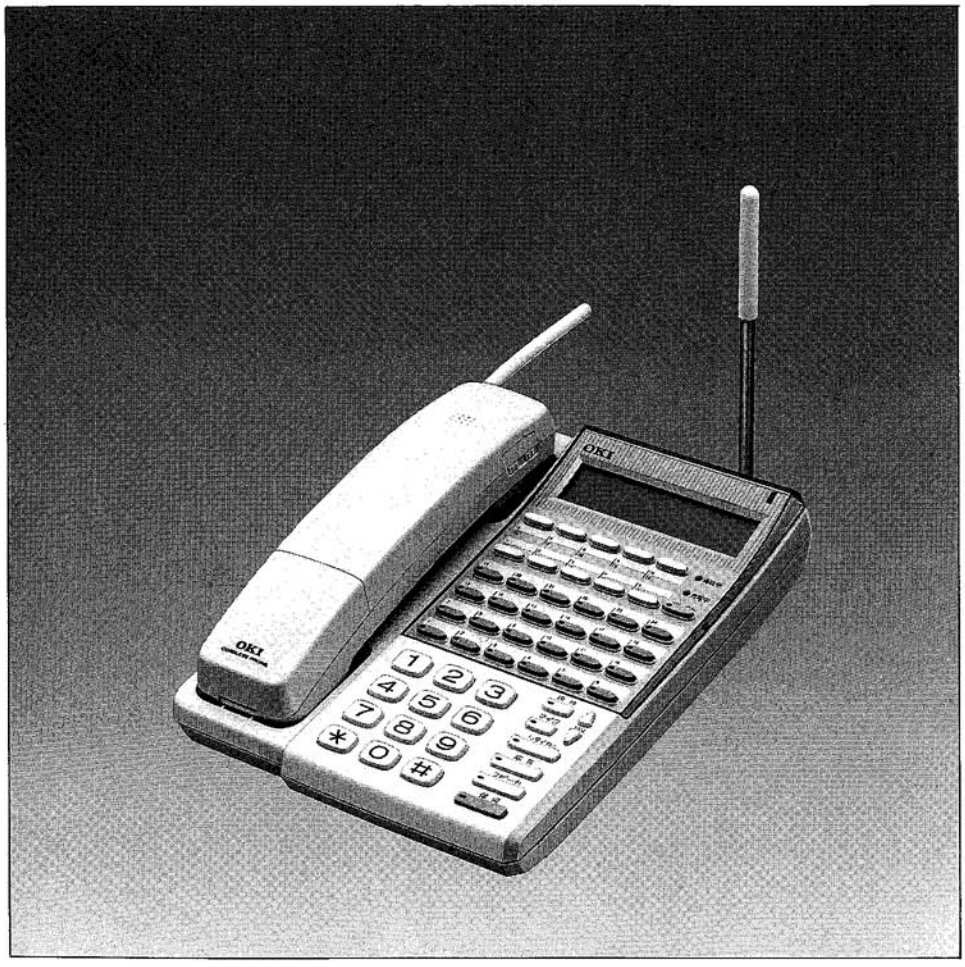
OKI

Freela

オキビジネスホンSRフリーラー

カールコードレス電話機

使用説明書



目　次

■　はじめに……1

1.　ご使用になる前に……2

2.　取扱い上のご注意……3

3.　各部の名称と主な働き……5

4.　フレキシブルキー……9

5.　操作説明

外線発信……9

・普通の発信　・オートダイヤル　・固定短縮ダイヤル　・リダイヤル　・ダイヤルメモリ
・プリセットダイヤル　・代理発信　・発信予約　・LCR発信　・キャリア選択発信　・VPN発信
・指定外線捕捉　・フッキング送出　・マルチステーション回線捕捉

外線着信……12

・普通の着信応答　・オフフック外線自動応答　・夜間鳴動先指定　・外線着信音選択
・呼出信号識別　・外線別個着信　・夜間DIL着信　・付加番号DID
・PBXダイヤルイン　・夜間PBXダイヤルイン　・ダイレクトグループライン　・留守応答　・留守録音
・簡易ACD　・着信ウエイトメッセージ　・無応答スライド着信　・VPN着信　・応答遅延転送
・代理応答　・指定代理応答　・集中着信　・通話中外線着信表示
・昼/夜モード切替　・ファクシミリ使用状況表示　・ファクシミリ外線側収容
・FNIによるファクシミリ収容

内線……14

・内線通話　・内線音声呼出　・内線ハンズフリー応答　・内線ワンタッチダイヤル　・内線クラス切替
・内線代表　・DSS/BLF　・グループ呼出　・DGLグループ呼出　・マルチステーションコール
・通話中着信　・内線割込み通話　・内線キャッチホン　・外線割込み通話　・放送呼出
・放送応答　・ホットライン　・不在設定　・時刻アラーム　・秘話解除　・着信音選択
・応答メッセージ録音　・自己内線番号表示　・発呼者番号表示　・内線発呼者名表示
・短縮ダイヤル名前表示　・時計表示

保留・転送……17

・自己保留　・通話保留　・パーク保留　・ダイヤル転送　・キャンプオンリンギング
・チェンジオーバー　・不在転送　・長時間保留警報音　・ファクシミリ自動転送
・ファクシミリ手動転送　・指定外線自動転送　・指定外線転送モード
・DID着信呼自動転送　・保留音送出　・外部保留音送出

電話機単体機能……20

・受話音量調節　・スピーカ受話音量調節　・着信音量調節　・ディスプレイ濃淡調節

保守・運用機能……20

・フレキシブルキーへの機能割付け　・フレキシブルキーへのシステム短縮ダイヤルの割付け
・フレキシブルキーへのDSS機能の割付け

6.　充電方法、および電池の交換・接続方法……22

7.　停電時の取扱い……25

8.　故障かな？と思ったら……25

■はじめに

このたびは、デジタル多機能電話機**カールコードレス電話機**(略称24ＤＣＬ)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、24DCL特有の機能を説明しております。電話機の基本機能につきましては、主装置に添付されている使用説明書を参考にしてください。

- 24ＤＣＬは**親機**（ベース部）と**子機**（ハンドセット部）で構成され、親機と子機の間を電波でやりとりするコードレス電話機です。

- 24ＤＣＬの機能は『デジタル多機能電話機』と同等で、子機にもダイヤルボタン、機能ボタンがついています。

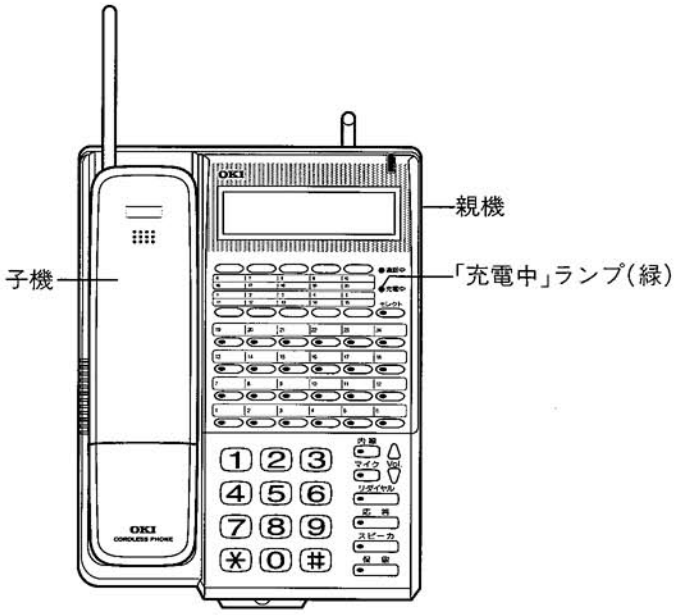
1. ご使用になる前に

●はじめて使用するときは、子機の電池を充電してから使用してください。

充電方法

①子機を親機にのせます。親機の「充電中」ランプ（緑）が点灯します。

②充電完了後も子機を親機にのせ、常に充電状態にします。このとき、「充電中」ランプは点灯したままです。
(注)充電が完了するまで約15時間かかります。

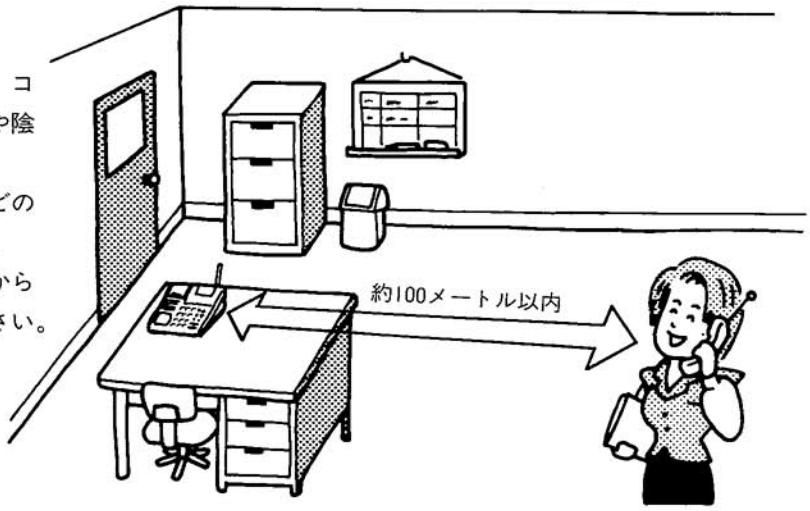


●長時間にわたって主装置の電源を切る場合、また、停電になる場合は事前に子機の電池のコネクタを外してください。電池が消耗して子機がすぐに使用できなくなることがあります。

2. 取扱い上のご注意

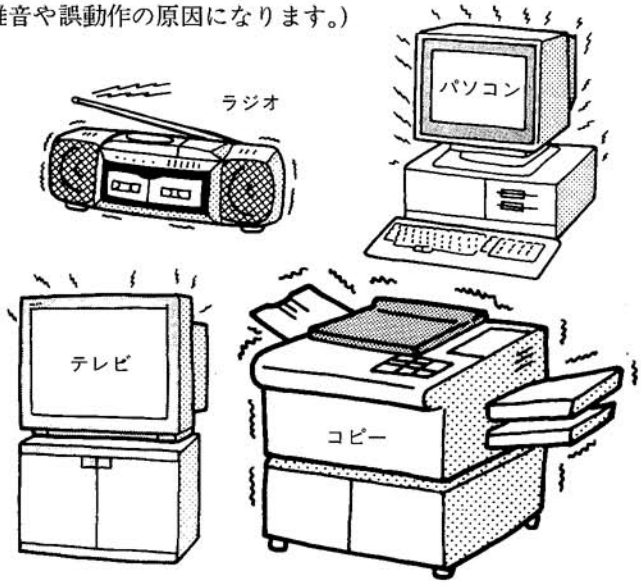
1) 設置のご注意

- 金属性の家具やドア、コンクリート壁のそばや陰をさけてください。
- 高さ50cm以上の机などの上に置いてください。
- アンテナは周囲の壁から50cm以上離してください。



2) 設置に好ましくない場所（雑音や誤動作の原因になります。）

- 不安定な場所
- 振動の多い場所
- 極端に寒い場所、暑い場所
- 湿度の高い場所
- 電気ノイズ、強磁界を発生する機器のそば
- ホコリの多い場所
- 高騒音の場所
- 薬品を使用している場所
- 金属製のドア、コンクリート壁のそばや陰等



3) 清掃するときは、シンナーやアルコールなどの使用はやめ、柔らかい布でからぶきしてください。汚れのひどいときは中性洗剤を薄めた液を布に含ませてふきとり、その後柔らかい布でからぶきしてください。

コードレス電話機での注意

1)本製品のコードレス子機（ハンドセット）を使っての通話は、電波を使用している関係上、第三者により故意に通話内容を傍受されるケースも考えられます。
機密を要する重要な会話は、今までお使いの電話機（標準電話機）をご使用いただくことをお勧めします。

2)コードレス電話機の不法改造は法律で禁じられています。

3)コードレス電話機を複数使用する場合
- 親機と子機はペアのものを使用してください。
- もし親機にペアでない子機を置いた場合、両方の通話が切れてしまうことがあります。そのままでは使用できませんので、ペアの状態に戻してください。
- 複数の親機の設置場所が近いと子機着信音が鳴らなかったり、通話中にノイズが入る場合がありますので、なるべく離して使用してください。

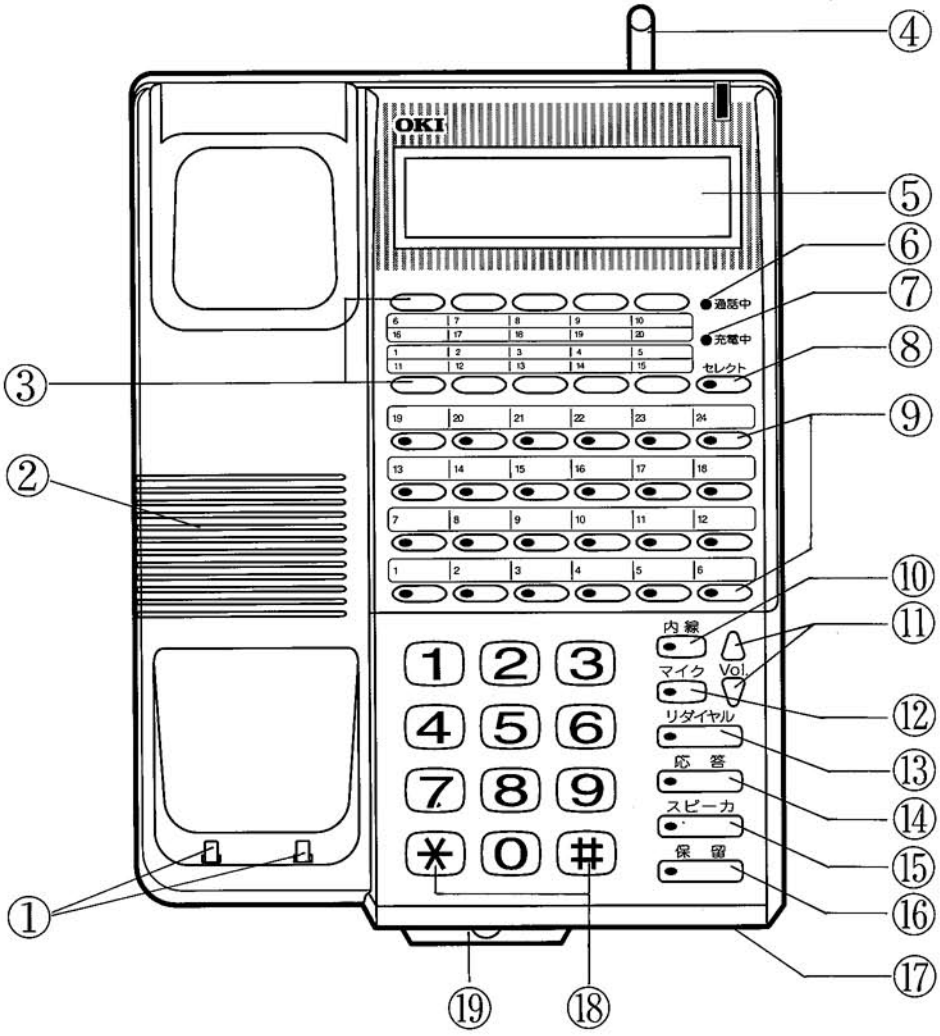
4)同じフロア内でコードレス電話機を多数使用している場合は、同時に使用するとつながらないことがあります。

5)子機は外線通話中、他の電話機の外線使用表示はしません。通話が終って「切」キーを押すと、他の電話機の外線使用状態が表示されます。

6)電波を使用している関係上、通話に雑音が入ることがあります。
また、通話中に子機のキーを押すと、相手に『ザッ』という音が聞こえますが故障ではありません。

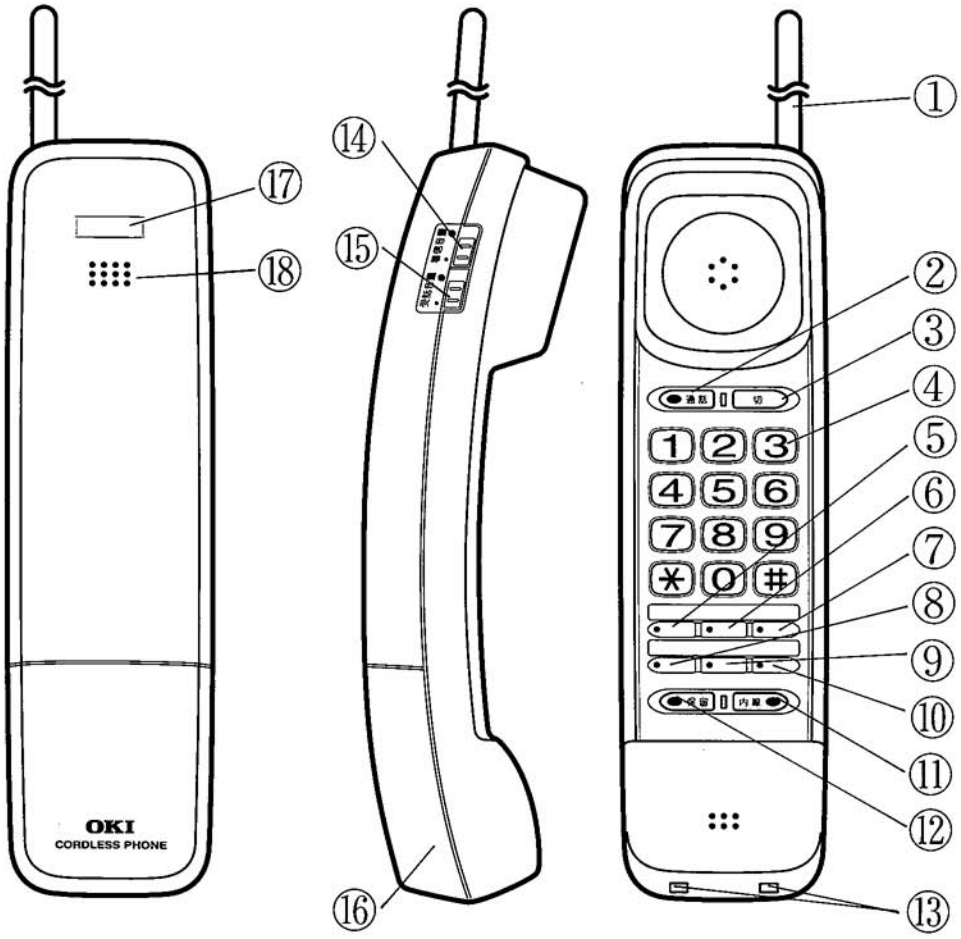
3. 各部の名称と主な働き

親 機



① 充電端子……子機の電池を充電する端子です。
② スピーカ……着信音や相手の声を聞くことができます。
③「ワンタッチ」キー……外線発信時にはオートダイヤルキーとして、内線発信時には、ワンタッチキーとして働きます。セレクトキーを押すことにより、1つのキーに2つのダイヤル（上下各1つずつ）を登録できます。
④ アンテナ……親機と子機の間を、電波でやりとりします。
⑤ ディスプレイ……日付、電話番号、ダイヤル、通話料金などを表示します。
⑥「通話中」ランプ……通話中は緑のランプが点灯します。
また、チャネルがふさがるか、電波干渉しているときは橙のランプが点灯します。
⑦「充電中」ランプ……子機の電池を充電中は緑で点灯します。
⑧「セレクト」キー、ランプ……ワンタッチキーにダイヤルを登録するとき、またはオートダイヤル、ワンタッチで発信するとき、上下の選択キーとして使用します。ランプは、上のときに消灯、下のときに赤のランプが点灯します。
⑨ フレキシブルキー（1～24）……外線キー、機能キー、ＤＳＳ／ＢＬＦキー、オートダイヤルなどを割り付けて使います。
⑩「内線」キー、ランプ……内線に転送するときに使います。
⑪「Vol.キー」……受話音量、スピーカ受話音量、着信音量、ディスプレイの濃淡調節に使います。
⑫「マイク」キー、ランプ……受話器を上げずに、マイクで応答する（内線ハンズフリー応答）ときに使います。キーを押すとランプが点灯し、機能が働きます。
⑬「リダイヤル」キー、ランプ……最後にかけた電話番号にかけ直すときに使います。ランプは赤く点灯します。
⑭「応答」キー、ランプ……外線キーを押さずに外線からの受信に応答できます。
⑮「スピーカ」キー、ランプ……受話器を上げずにスピーカから、相手の声を聞くときに使います。スピーカ受話時にランプが点灯します。
⑯「保留」キー、ランプ……通話中の相手を保留することができます。また、オートダイヤルの設定にも使います。
⑰ マイク……「マイク」キーを押すと、受話器を上げなくてもマイクで話すことができます。
⑱ ダイヤルキー（1～0、＊、＃）…ダイヤルしたり、登録や設定するときに使います。
⑲ 短縮ダイヤルカード……短縮ダイヤルに登録した名前を記入します。

子 機


①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
通話
切
1 2 3
4 5 6
7 8 9
＊ 0 #
交信
内線
OKI
CORDLESS PHONE

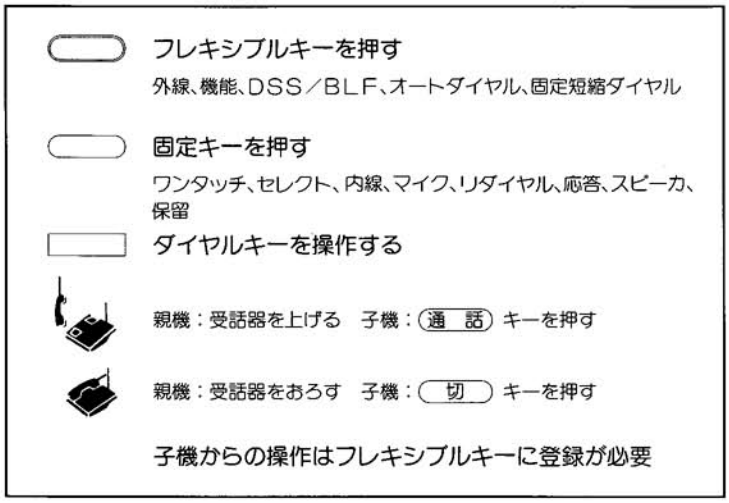
① アンテナ……親機と子機の間を、電波でやりとりします。
②「通話」キー、ランプ……電話をかけたり、受けたりします。通話中は緑のランプが点灯します。赤のランプが点灯したら、充電が必要です。
③「切」キー……通話を切るときに使います。
④ ダイヤルキー(1～0、＊、＃)…ダイヤルしたり、登録や設定するときに使います。
⑤ フレキシブルキー1……親機のフレキシブルキーの27に対応します。
⑥ フレキシブルキー2……親機のフレキシブルキーの28に対応します。
⑦ フレキシブルキー3……親機のフレキシブルキーの29に対応します。
⑧ フレキシブルキー4……親機のフレキシブルキーの30に対応します。
⑨ フレキシブルキー5……親機のフレキシブルキーの31に対応します。
⑩ フレキシブルキー6……親機のフレキシブルキーの32に対応します。
⑪「内線」キー、ランプ……内線に転送するときに使います。
⑫「保留」キー、ランプ……通話中の相手を保留することができます。
⑬ 充電端子……子機の電池を充電する端子です。
⑭「着信音量」スイッチ……着信音量を大、標準に切り替えます。
⑮「受話音量」スイッチ……受話音量を大、標準に切り替えます。
⑯ 電池カバー……電池を交換するときに、コインなどで外します。
⑰ 子機内線シール……親機と同じ内線番号を記入します。
⑱ ブザー……各種警告音（通話圏外など）や、電話がかかってくると着信音が鳴ります。

4. フレキシブルキー

フレキシブルキーには、 外線キー、 オートダイヤルキー、 システム短縮ダイヤル番号キー、 ＤＳＳキー、 機能キー （代理応答キー、 集中着信キー） など、いろいろな機能を割付けて使うことができます。これに関しては、主装置添付の使用説明書P.14以降を参照してください。

5. 操作説明

■各記号の意味



区分	機　能		操　作　方　法	子機操作	備　考
外線発信	普通の発信		→ （外　線） → 相手番号	可	・「外線」キーは子機にも登録可能です。 ・「外線」キーの代わりに、0 でも発信が可能です。 ・オフフックだけで外線発信することができます。
	オートダイヤル（ワンタッチダイヤル）	発信	→ （外　線） → （ワンタッチ） → （セレクト） → （ワンタッチ）	不可	・「セレクト」キーで上側、下側を選択できます。（セレクトランプ点灯時下側）
		登録	→ （保　留） → （ワンタッチ） → → （セレクト） → （ワンタッチ） 連続登録の場合 → 番号種別 → 相手番号 → （保　留） → ※ポーズは「応答」キー	不可	・番号種別 外線　：0 内線／特番／専用線　：1 ＰＢＸ内線／ＰＢＸ専用線：2 ・フレキシブルキーへの登録も可能です。
	固定短縮ダイヤル（システム短縮ダイヤル）	発信	→ （外　線） → （短　縮） → 短縮番号	可	
		登録	→ （保　留） → （短　縮） → 短縮番号 → 番号種別 → 連続登録の場合 → 相手番号 → （保　留） → ※短縮番号は100～599	不可	・番号種別 オートダイヤルと同一です。 ・短縮番号は２桁に設定が可能です。 ・登録はシステム管理電話機のみ可能です。

区分	機能		操作方法	子機操作	備考
外線発信	リダイヤル	普通のリダイヤル	→ (外線) → (リダイヤル)	可	
		クイックリダイヤル	話中音 → (リダイヤル)	可	
		オートリピート	話中音 → (リピート)	不可	・最初の発信を含めて3回までです。
	ダイヤルメモリ	発信	→ (外線) → (ダイヤルメモリ)	不可	
		登録	通話中 → (ダイヤルメモリ) → 相手番号 → (保留)	不可	
	プリセットダイヤル		ダイヤル → (外線) (短縮) → 短縮番号 → (外線) ※内線発信、外線発信、専用線発信も可能	不可	・オンフック状態でダイヤルし確認後発信できます。 ・プリセットモードありの場合可能です。 主装置の設定が必要です。
	代理発信		→ 代理発信特番 → → ダイヤルメモリの電話機にダイヤル	可	・自分の電話機のダイヤルメモリで発信できます。 ・特番は主装置の設定が必要です。
	発信予約(注)	登録	→ (予約) → (外線) ※予約ランプ点灯 → 特番 → (外線) 話中音 → (予約) → 特番	可	・特番は主装置の設定が必要です。 ・「外線」キーを押す代わりに、「発信」キーでも外線とつながります。
		解除	→ (予約) ※予約ランプ消灯 → 特番	可	
		呼出	呼出音鳴動 → → ダイヤル	可	
	LCR発信		(LCR発信)：外線発信操作 (LCR発信停止)： → (LCR停止) → 発信操作 ※発信毎	可	・複数のNCC(新電電)と契約時、最も安いルートで発信します。 主装置での設定が必要です。
	キャリア選択発信		→ (外線) → キャリア番号 → 相手番号 (00XX)	可	・NCC回線を指定して発信することができます。

(注) Ver. 1.2以降の機種に対応します。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
外線発信	VPN発信	→ 外線 → 相手番号 ※相手番号は閉域番号をダイヤル(オンネット発信)。閉域外への発信は外線線捕捉後相手番号の先頭に0を追加（オフネット発信)。	可	・VPN回線の契約が必要です。主装置の設定が必要です。
	指定外線捕捉	→ 特番 → 外線番号	可	・指定した外線を捕捉できます。主装置の設定が必要です。
	フッキング送出	外線通話中 → 外線 → フッキング	可	・外線にフッキングを送出できます。（キャッチホン対応など）主装置での設定が必要です。
	マルチステーション回線捕捉	→ MSA	可	・外線グループ内の空き回線を捕捉して発信できます。 ・MSAキーに使用中、保留表示が可能です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
外線着信	普通の着信応答	着信表示 → 🖷 → (外線)／(専用線) → (応答) → (MSA／DGL)	可	・オフフックのみでも応答可能です。 主装置の設定が必要です。
	オフフック外線自動応答	着信表示 → 🖷 ※外線、専用線に応答可能	可	・オフフックするだけで着信に自動応答できます。 主装置の設定が必要です。
	夜間鳴動先指定	操作は普通の着信と同じ。 ※昼／夜切替操作が必要	可	・昼／夜で外線毎の着信鳴動電話機を変えることができます。 主装置の設定が必要です。
	外線着信音選択	🖷 → (保留) → 3 → (現着信音) → → # → (着信音聴取) → 次の音種 ※音種は4種から選択可	不可	・外線毎の着信音が設定してある場合はその設定によります。 主装置の設定が必要です。
	呼出信号識別	外線着信時の呼種毎に識別ができます。 ※一般着信、CES／PBX着	可	
	外線別個別着信（DIL）	着信表示 → 🖷 → (外線)／(専用線) → (応答) → (MSA／DGL)(着信モードによる)	可	・指定外線への着信を指定内線に着信できます。 主装置での設定が必要です。
	夜間DIL着信	操作方法はDILと同じ。 ※昼／夜切替操作が必要	可	・DILの着信先を昼　夜で変えることができます。 主装置での設定が必要です。
	付加番号DID	着信表示 → 🖷 → (外線)／(専用線) → (応答) → (MSA／DGL)(着信モードによる)	可	・着信時自動応答し、PB信号により着信内線を指定する着信方法です。 主装置での設定が必要です。
	PBXダイヤルイン（DI）	付加番号DIDと同じ。	可	・指定番号の内線着信又はDGLグループに着信させることができます。 主装置での設定が必要です。
	夜間PBXダイヤルイン（DI）	操作方法はPBXダイヤルインと同じ。 ※昼／夜切替操作が必要	可	・DIの着信先を昼／夜で変えることができます。 主装置での設定が必要です。
	ダイレクトグループライン（DGL）	着信表示 → 🖷 (オフフック外線自動応答) (MSA) → (MSA) (DGL) → (DGL) ※内線グループに関係なくMSA、DGLキーを設定した電話機で応答ができます。	可	・外線着信をDGLグループに着信できます。 ・DGLキー：複数回線のグループ収容 ・MSAキー：1回線収容 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
外線着信	留守応答	内線電話機の操作はなし ※昼／夜切替操作が必要	可	・指定外線への着信時自動応答し応答メッセージを送出します。 主装置での設定が必要です。
	留守録音	内線電話機の操作はなし ※昼／夜切替操作が必要	可	・指定外線への着信を自動的に録音装置へ接続します。 主装置での設定が必要です。
	簡易ＡＣＤ	応答操作はＤＩＤ／ＤＩ／ＤＩＬと同じ	可	・着信呼をグループ内の電話機に均等に着信させることができます。 主装置での設定が必要です。
	着信ウエイトメッセージ	待たせる場合：通話中 → 着信ウエイト → (外線) → → 保留状態となる（応答、MSA、DGL） 応答する場合：→ 着信ウエイト → (外線)(MSA)	不可	・通話中別の外線に対し待ち合わせメッセージを送出後自動的に保留します。
	無応答スライド着信（シフト着信）	応答操作はＤＩＤ／ＤＩ／ＤＩＬと同じ ※個別着信等が対象	可	・外線からの個別着信に対して一定時間応答しない場合、別の内線にスライド着信します。 主装置での設定が必要です。
	ＶＰＮ着信	一般着信または個別着信応答	可	・ＶＰＮ回線からの応答です。（一般着信、個別着信） 主装置での設定が必要です。
	応答遅延転送	一般着信応答	可	・一般着信時一定時間応答しない場合、他の内線グループに転送します。 主装置での設定が必要です。
	代理応答	代理応答グループ内への着信中 → (代理応答) → 特番 ※一般着信、個別着信が対象	可	・他の内線グループへの着信に応答することができます。 主装置での設定が必要です。
	指定代理応答	他の代理応答グループへの着信中 → (指定代理応答) → 代理応答グループ番号 → 特番 → 代理応答グループ番号 ※一般着信、個別着信が対象	可	・他の代理応答グループへの着信に応答することができます。 主装置での設定が必要です。
	集中着信	登録：→ (集中着信) → 特番 解除：→ (集中着信) → 特番	可	・システム内の個別着信（ＤＩＬ／ＤＩＤ／専用線着信）以外の一般着信にオフフックで応答できます。
	通話中外線着信表示	通話中外線着信 → スピーカより警告音送出	不可	・電話機由に送出の有無設定可能です。 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
外線着信	昼／夜モード切替	(昼夜切替) ※昼夜交互に切替わります。 ※時刻、曜日、祝祭日による自動切替えも可能。	可	・電話機の着信形態を昼夜切替えます。 主装置での設定が必要です。
	ファクシミリ使用状況表示	ＦＡＸ使用中 → ＦＡＸの赤ランプ点灯、終了時消灯 ＦＡＸ着信時 → ＦＡＸの赤ランプ60インタで点滅、ＦＡＸ押下で消灯 通話中ＦＡＸ押下でＦＡＸに転送 ※ＦＡＸと電話機の対応付けが必要	可	・ファクシミリの空／使用中／通信有の状態表示ができます。 主装置での設定が必要です。
	ファクシミリ外線側収容	内線の操作はありません。	可	・外線側にＦＡＸを収容して着信し、ＦＡＸ発信は内線と共用化することができます。 主装置での設定が必要です。
	ＦＮＩによるファクシミリ収容	内線の操作はありません。	可	・外線着信時自動応答し、ＦＡＸ着信を検出した場合ＦＡＸに接続し、その他の場合、外線着信表示となります。 主装置での設定が必要です。
内線	内線通話	(内線) → [内線番号] ※プリセット発信も可能	可	
	内線音声呼出	(内線) → [内線番号] → (音声呼出) 内線呼出状態 → [×] → → (トーン呼出) 内線呼出状能 → [×]	可	
	内線ハンズフリー応答	音声呼出状態 → (マイク)	不可	・マイクランプが点灯している場合は、マイクキーを押す必要はありません。
	内線ワンタッチダイヤル	発信：→ (セレクト) → (ワンタッチ) 登録：オートダイヤルの登録方法と同じ（P.9参照） ※通話中ワンタッチを押下すると通話中の呼を保留して内線呼びとなります。	不可	・一つのワンタッチキーに外線向けと内線向けを同時に登録することはできません。 ・フレキシブルキーへの登録も可能です。
	内線クラス切替	登録：→ (クラス切替) 解除：→ (クラス切替) ※時間、曜日、祝祭日による自動切替も可能	可	・内線のクラスをクラス切替グループ毎に切替えることができます。 主装置での設定が必要です。
	内線代表	内線応答操作	可	・代表内線番号グループをダイヤルするだけで、空内線を呼出します。 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
内線	DSS／BLF	発信：→ (DSS／BLF) 応答：内線呼出中 → (DSS／BLF) 登録：→ (保　留) → [9] → (フレキシブル) → → [内線番号] → (保　留)	不可	・空外線キーに内線を割付して、ワンタッチ発信、話中表示ができます。
	グループ呼出	発信：→ [特　番](グループ発信) → [グループ番号] 応答：グループ呼出中 → [特　番](グループ応答) → → [グループ番号]	可	主装置での設定が必要です。
	DGLグループ呼出	発信：→ [特　番] → [DGLグループ番号] 応答：→ (DGL) / → (MSA) ※オフフックのみでの応答も可能	可	
	マルチステーションコール	→ [拡張内線番号] → MSA着信 → (MSA) / → DGL着信 → (DGL)(応答) ※拡張内線番号＝特番＋DGLグループ番号	可	・DGLグループ呼出時、内線番号で呼出すことができます。またMSA、DGLキーで応答できます。
	通話中着信	登録者：内線発信後BT → [特　番] (このとき相手に通話中着信音送出) 被登録者：通話中 → (内　線) → 通話 (バースト音) → (フッキング) → 通話	可	・内線呼出時、話中の場合キー操作により呼出すことができます。
	内線割込み通話	→ (割　込) → 三者通話		・割込みは規制できます。 主装置での設定が必要です。
	内線キャッチホン	登録：→ [内線番号] → (RBT) → 通話 被登録：通話中 → 割込み音 → (内　線) / → (フッキング) → 現在の通話は保留 ※内線キーを押下する毎に通話相手が切り替わります。 (チェンジオーバー)	可	・内線毎に許可、不許可を設定可能です。 主装置での設定が必要です。
	外線割込み通話	→ (割　込) → (外　線) → 三者通話	可	・内線毎に許可、不許可を設定可能です。 主装置での設定が必要です。
	放送呼出	→ [特　番] → [放送装置番号]	可	・チャイム音送出の有無の設定が可能です。 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
内線	放送応答	→ 特　番 → 放送装置番号 → 内線通話	可	
	ホットライン	→ 指定内線呼出し	可	・オフフックだけで指定した内線を呼出します。 主装置での設定が必要です。
	不在設定	不在種別登録：→ 保　留 → 不在設定 → 不在種別 → 保　留 → 応　答 または 不在種別 →（スクロール） ※不在種別　1：フザイ、2：ガイシュツ、3：カイギ 登録／解除：空き → 不在設定 発信：→ 内線番号 → 不在表示（BT音）	可	・離席時内線呼出しされた相手に不在メッセージを送信できます。
	時刻アラーム	登録：→ アラーム → 時刻(0000～2359)24時制で入力 → 保　留 解除：→ アラーム ※鳴動時アラームキーで停止させない場合、毎日同時刻に再度鳴動します。	可	・10秒間鳴動します。
	秘話解除	登録：外線通話中 → 秘話／会議 → 解除状態 割込み：外　線 → 三者通話 MSA （秘話解除状態の外線）	可	
	着信音選択	→ 保　留 → 3 → 現状着信音 → # → 次の着信音 → 保　留 応答キーによりスクロール ※音源は4種から選択	可	・外線着信音に従わないことも可能です。 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
内線	応答メッセージ録音	→ (保留) → 6 → 機能番号 → 録音状態表示（LCD）応答でスクロール → 機能番号 → ＊ → 録音再生状態 → 0 ……→ 既に録音されたユニットを登録する場合 → # → 録音 → # → 再生 → (保留) ※録音時間は16秒間 ※機能番号 1：転送電話着信側ガイダンス 2：転送電話転送側ガイダンス 3：着信ウェイトガイダンス 4：留守応答ガイダンス 5：付加番号ＤＩＤアナウンス ※機能番号5の付加番号ＤＩＤアナウンスを録音しない場合は、固定メッセージが送出されます。	不可	・システム管理電話機から録音可能です。
	自己内線番号表示	空きの時、常時自己の内線番号を表示します。	不可	
	発呼者番号表示	内線着信時、発呼者の内線番号を表示します。	不可	
	内線発呼者名表示	内線発信／着信時、発呼者の名前を表示します。	不可	主装置での設定が必要です。
	短縮ダイヤル名前表示	短縮番号から検索 (短縮) → 短縮番号 → 相手先表示 → ▲▼にて検索 名前からの検索 (短縮) → (ネーム) → オートダイヤルの6～10にて検索 ※発信はプリセット発信による。	不可	・システム管理電話機からの登録が必要です。
	時計表示	空きの時常時、月日、曜日、時刻を表示します。	不可	・12／24時間制切替え可能です。
保留・転送	自己保留	保留：(外線)、(内線)、(ドアホン) → (自己保留) 応答：→ (自己保留)、(外線)、(MSA)、(ドアホン)	可	・自己保留から転送はできません。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
保留・転送	通話保留	保留：通話中 → (保留) 応答：→ (外線) / (MSA) / (ドアホン) / (パーク)(パーク保留の項参照) ※最後に保留した通話を、内線ダイヤルでオンフック転送できます。	可	・口頭転送できます。
	パーク保留	保留：通話中 → (保留) / (パーク) / (フッキング) → 特番 応答：→ (パーク) / 特番 ※内線もパーク保留可能。	可	主装置での設定が必要です。
	ダイヤル転送（外線／内線）	通話中 → (内線) → 内線番号 / (ワンタッチ) / (DSS／BLF) → 相手応答 → (転送完了) ※相手話中時、再度、内線キー押下で再応答できます。外線通話中は内線キーを押下する度に、通話相手が外線内線交互に代わります。（チェンジオーバー）	可	・外線、ドアホンの転送です。 ・相手応答後オンフックすれば転送されます。
	キャンプオンリンギング（外線／内線）	通話中 → (内線) → 内線番号 / (ワンタッチ) / (DSS／BLF) → 内線呼出状態 →	可	・相手未応答状態でオンフックしても転送できます。 主装置での設定が必要です。
	チェンジオーバー（交互打合せ）	ダイヤル転送の項参照	可	
	不在転送	登録：→ (不在転送) / 特番 / 内線番号 / ＊ → 自内線番号（フォローミー） → (保留) （変更不用の時） 解除：→ (不在転送) / 特番 ※転送先は外線も登録できます。	不可	・対象は内線、個別着信です。 ・フォローミーは転送先電話機で設定します。 ・代表スライドはしません。 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
保留・転送	長時間保留警報音	長時間保留した内線に警告音を送出します。	不可	・主装置での設定が必要です。
	ファクシミリ自動転送	着信 → 一次応答 → CNG待ち → CNG検出 → 指定FAX着信 → 未検出 → 一般着信 ※着信時自動応答し、FAXのCNG信号を検出した場合指定したFAXに自動転送します。	可	・主装置での設定が必要です。
	ファクシミリ手動転送	着信 → 応答 → キャリア音 → (FAX) → FAX着信（内線に対応したFAX） → 特番 → FAX着信（内線に対応したFAX）	可	・主装置での設定が必要です。
	指定外線自動転送	転送電話番号登録 → (保留) → (指定外線転送) → (応答) → (外線) → 相手番号 → (保留) クリアの場合 ※応答キーは該当発信グループの全外線が対象となります。 登録： → (指定外線転送) → (応答) → (外線) → (保留) （一括登録の場合） 解除： → (指定外線転送)	不可	・外線毎に着信時自動的に指定した外線の転送先に転送できます。主装置での設定が必要です。
	DID着信呼自動転送	登録 → (不在転送) → # → 0 → 相手番号 → → 特番 → (外線) → 2 → (PBX内線) → (保留) 相手変更不要の場合 解除 → (不在転送) → 特番	不可	・個別着信のとき外線に転送できます。 主装置での設定が必要です。
	保留音送出	保留時相手に保留音が送出されます。（3曲から選択） ・グリーンスリーブス ・峠のわが家 ・2つのメヌエット	可	・主装置での設定が必要です。
	外部保留音送出	外部の保留音を送出できます。	可	・外線、内線、専用線、ドアホン種別毎に指定できます。 主装置での設定が必要です。

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
電話機単体機能	受話音量調節	通話中 → (Vol.) → 現音量表示 → [△] → 高音量 → [▽] → 低音量 → (Vol.) ※3段階に調節可能	不可	
	スピーカ受話音量調節	通話中 → (スピーカ) → → スピーカ受話 → (Vol.) → 現音量表示 → [△] → 高音量 → [▽] → 低音量 → (Vol.) ※8段階に調節可能	不可	
	着信音量調節	→ (Vol.) + [1] → 現音量表示 → [△] → 高音量 → [▽] → 低音量 → (Vol.) ※3段階に調節可能	不可	
	ディスプレイ濃淡調節	→ (Vol.) + [3] → 現濃淡表示 → [△] → 濃< → [▽] → 淡< → (Vol.) ※8段階に調節可能	不可	
保守・運用機能	フレキシブルキーへの機能割付け	親機の場合： → (保留) → [0] → (フレキシブル) → [#] → [機能番号]※ → 新機能名表示 → (保留) → (スピーカ) 連続割付けの場合 子機の場合： → (切)子機 → (保留)親機 → [0]親機 → (フレキシブル)子機 → [#]親機 → [機能番号]※ → 新機能名表示 → (保留)親機 → (スピーカ)親機 連続割付けの場合	可	※機能番号 01 リダイヤル 02 オートリピート 03 ダイヤルメモリ 04 短縮ダイヤル 05 代理応答 06 亟解除／会議 07 夜間切替nn 08 集中着信 09 指定外線転送 10 自己保留 11 不在設定 12 PB信号 13 予　約 14 I　D 15 不在転送 16 LCR停止 17 クラス切替nn 18 指定代理応答 19 着信ウェイト 20 割込み 21 フッキング 22 料　金 23 アラーム 24 FAX1 25 FAX2 26 在席／離席 27 通話録音 28 メール登録 29 録音終了 30 一時停止 31 ランプ更新 32 外線発信 33 キャリア選択

区分	機　能	操　作　方　法	子機操作	備　考
保守・運用機能	フレキシブルキーへのシステム短縮ダイヤルの割付け	登録： → (保 留) → [0] → (フレキシブル) → [0] → 連続割付けの場合 → [短縮番号] → (保 留) → (スピーカ) ※短縮番号は100～599 解除： → (保 留) → [0] → (フレキシブル) → → (保 留) → (スピーカ)	不可	
	フレキシブルキーへのDSS機能の割付け	登録： → (保 留) → [9] → (フレキシブル) → 連続割付けの場合 → [内線番号] → (保 留) → (スピーカ) 解除： → (保 留) → [9] → (フレキシブル) → → (保 留) → (スピーカ)	不可	

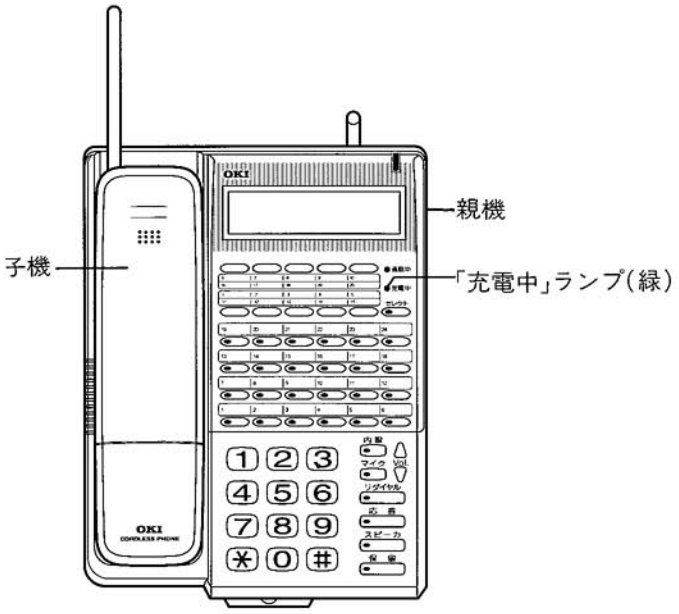
6. 充電方法、および電池の交換・接続方法

●はじめて使用するときは、子機の電池を充電してから使用してください。

充電方法

①子機を親機にのせます。親機の「充電中」ランプ（緑）が点灯します。

②充電完了後も子機を親機にのせ、常に充電状態にします。このとき「充電中」ランプは点灯したままです。
（注）充電が完了するまで約15時間かかります。



●充電が完了している場合、連続使用できる時間は次のとおりです。

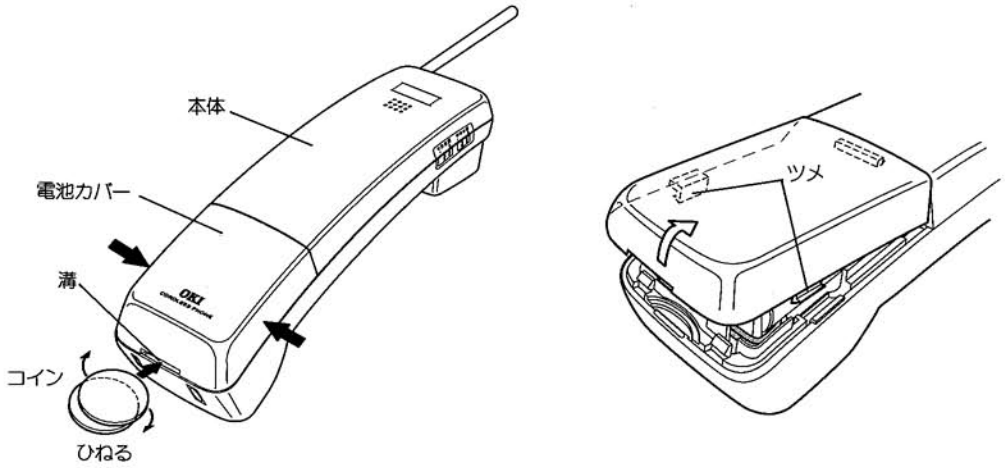
連続通話時間：約4時間（最大）
連続待受時間：約80時間（最大）

注意：1)主装置の電源は夜間、休日でも切らないでください。
充電不足となり、すぐに使えない場合があります。
2)充電が完了していなくても子機は使用できますが、通話時間、待受時間が短くなります。
3)充電端子（親機、子機）が汚れていると充電時間が長くかかったり、充電できないことがあります。
充電端子が汚れたときは、乾いた布でからぶきしてください。

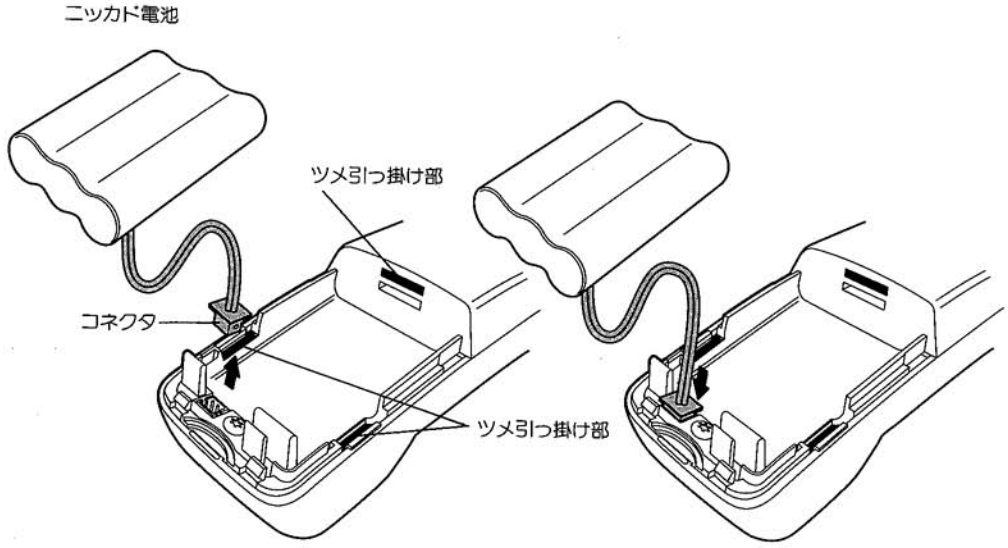
電池の交換・接続方法

●24DCLの子機には、ニッカド電池を使用しています。電池の寿命は約2年ですが、年数が過ぎたり、充電しても通話できる時間が短くなったり、また通話に雑音が入る場合は電池の寿命です。早目に新しい電池に交換してください。

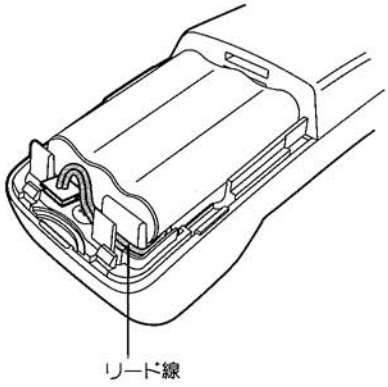
①電池カバーを開けます。
コインを電池カバーと本体の溝にさし込み、電池カバーのツメ部を内側に押しながら、軽くひねると開きます。

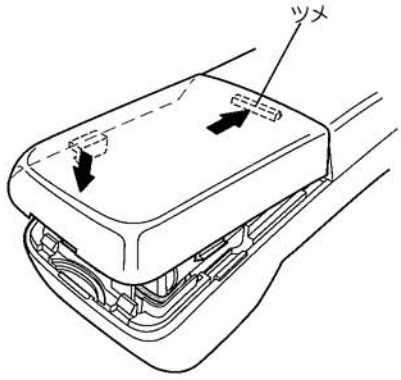


②電池を取り出し、コネクタを外します。新しい電池と交換し、コネクタを差し込みます。



③電池のリード線は図のようにキチンと通します。次に、電池カバーのツメを本体のツメ引っ掛け部に挿入しながら、下に押して取り付けます。『カチッ』と音がして固定されます。





注意：1)コネクタの差し込みは、正しい方向でしか差し込めません。
無理に差し込まないでください。

2)電池の寿命は使い方にもよりますが、約2年です。

3)専用のニッカド電池以外は使用しないでください。

4)電池は火の中に投げ込まないでください。爆発するおそれがありますので大変危険です。

5)新しい電池に交換した後は、必ず充電してください。(15時間程度)

6)電池の上下を逆に取り付けると電池がはずれる恐れがありますので、正しい向きに取り付けてください。

7)電池カバーを閉める際、電池カバーのツメが折れないように注意して閉めてください。

7. 停電時の取扱い

●停電時は使用できませんので停電用電話機をご使用ください。

8. 故障かな？と思ったら

●通話ができない

①子機の電池がなくなっていると通話できませんので充電してください。

②親機と子機がペアでないと通話できません。ペアの確認は親機と子機の製造番号で分かります。

③電話をかけたり、受けたりするときは多少時間がかかります。
子機をとる、または「通話」ボタンを押してから通話可能になるまでに約2秒かかります。

●通話が切れてしまう

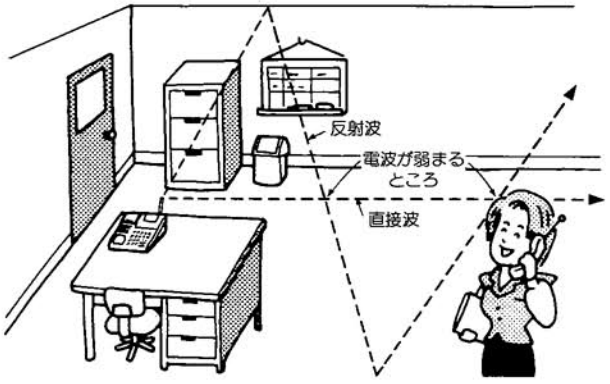
①通話中に子機を親機にのせると通話が切れます。
ただし、親機の「スピーカ」ボタンを押してから子機を親機にのせた場合は切れません。

②通話中に不要なボタンを押すと通話が切れてしまうことがあります。

③通話中に子機が親機から離れすぎると通話が切れます。
通話圏外警告音『ピッピッピッピッ』が聞こえたら親機に近づいてください。
（通話可能範囲は見通し距離で約100メートル以内です。）

④通話中に子機の電池がなくなると通話が切れます。（通話中ランプが赤で点灯します。）
警告音『ピー』が聞こえたら充電してください。
（警告音が聞こえてから約30秒間は通話できます。）

●通話可能範囲内で通話圏外警告音が鳴る、または受信できない、発信できない
天井、床、家具などによる反射波と直接波が干渉しあい、通話が可能距離内でも電波が弱まるところができることがあります。この場合は、少し移動してください。



●子機が親機にのっている場合、着信音は親機で鳴ります（プルルルルッ）
子機が親機にのっていない場合、着信音は子機で鳴ります。（ピロロッ　ピロロッ）

OKI 沖電気工業株式会社

4YB1117-1296 P001 Rev.1.1
©1994 Oki Electric Iudustry Co., Ltd.